

対人援助学&心理学の縦横無尽（1）

顔文字とエモティコン



サトウタツヤ@立命館大学

対人援助学の里程標から、タイトルを変更しました。タイトルを変えたら縦横無尽に書けるようになるかといえば、もちろん、そんな夢のようなことはありませんでした。苦しい時のビネ頼み（知能検査のアルフレッド・ビネのこと）とも思いましたが、それでは何のために、里程標という歴史がらみのタイトルから変えたのか分からないので、少し歴史を離れてみることにします。

文化心理学という領域があります。文化と人の相互影響過程を研究する領域です。北海道大学の結城雅樹先生が面白い実験をしています。下の図を見てください。



顔文字と呼ばれるものです。私の使っているワープロ・フロントエンドプロセッサ ATOK では「かおもじ」と入れると、<(^_^)>だったり(^_^)だったり、登録されているほど、日本でも定着しています。英語圏ではエモティコン (Emoticon) と呼びます。感情＋アイコンということだと思います。

左と右で何が違うのでしょうか？顔の向き？もちろんそれもありますが、それよりも、顔の表情を何で作っているか、に注目してみてください。私たちが日頃見慣れている左の顔文字は目が笑っている。右側のエモティコンは口が笑っている。つまり、日本のものは目が笑い、英語圏のものは口が笑っているのです。先の結城先生たちは、いろいろな顔文字を日米の大学生に見せて、表情を評定してもらいました。左側の顔文字についての評定を見てみると、日本の大学生はうれしそうだと評定したのに対し、アメリカの大学生は、ニュートラル（中性）と評定したといえます。つまり、顔から何を読み取るかが文化によって異なると示唆されるのです。

次に一つ実際の写真を見てみましょう。この写真は 2010 年に慶應義塾大学で行われた日本パーソナリティ心理学会において、筆者の恩師である詫摩武俊先生とそのかつての門下生たちです。教え子といっても、それぞれ年をとっています。中央が詫摩先生です。こちらから見て右の男性は堀正先生（群馬大学）、手前左の男性は中村真先生（川村学園女子大

学)。堀先生は口元を見ると一文字に結んでいます、ピースサインをしてお茶目です。日本ではピースサインが笑顔の代わりなのかもしれません。中村先生は口を閉じ、しかし目を最大限の大きくあけてにこやかな表情を演出しています。詫摩先生は穏やかに微笑んでいます、やはり口を開けてはいません。一人だけ歯を見せているのが不肖の弟子たる私です。この年になっても歯を見せて「不肖ぶり」を発揮しています。中学の野球部で、「笑ってるんじゃない！」といって先輩からビンタされたことを思い出しましたが、それもこういう理由だったのでしょう。



もう一つ。次の写真はイタリアのコスプレイヤーです。今やコスプレは世界の文化。「ストリート・ファイター・2」から、チュン・リー。



可愛らしいけど、何かぎこちない。それはピースサイン。この方は、日本人が写真を撮る時に、口を開けていないこと、指を二本出すこと、について知識を持っているのでしょう。だから、そうした方が「日本人らしくなる」と分かっているのだと思います。しかし、指を二本出せばいいってものではないし、目が笑ってない。だから、私たちが見ると不思議な感じに見えるのではないのでしょうか。

文化は空気のようなモノだ、と言います。私たちは空気の存在に気づかないように、文化の存在には気づかない。しかし、今回のような比較をしてみると、確かに存在していることがわかります。比較文化心理学の研究はそうしたことを私たちに気づかせてくれます。ただし、比較文化心理学は二つの文化の差異をことさらに大きく見せてしまうという副作用があります。あまりに大きな差があるとその違いに絶望してしまうかもしれません。そもそも、私たちは最初からこうした文化を身につけていたわけではなく、成長過程で身につけてきたはずです。ですから、文化 A と文化 B がこう違う、というような研究だけではなく、その獲得を時間にそったプロセスとして描く研究が求められ始めています。そうした研究のことを「文化心理学」と呼ぶことがあります。ロシアの心理学者・ヴィゴツキーに遡るもので、コール、ワーチ、エンゲストローム、ヴァルシナーといった人たちが作っている流れです。比較に基づかない文化心理学の可能性は今後広がっていくでしょう。拙著『TEM で始める質的研究』も文化やプロセスを重視する流れの中で具体的な方法論を構築していこうとしている、と理解することが可能なのかもしれません。

文献

サトウタツヤ（編著） 2009 TEM で始める質的研究 誠信書房

Yuki et. al. 2007 Are the windows to the soul the same in the East and West? Cultural differences in using the eyes and mouth as cues to recognize emotions in Japan and the United States, Journal of Experimental Social Psychology, 43(2): 303-311.

HP <http://www.francescadani.com/cosplay/chunli/imagepages/image4.html>